

市議団ニュース

代表者会議

党市議団は現状34名を主張！

議員定数の各会派の意見

「各会派の定数案とその理由」

- 飛翔 30**
類似団体、地域性、常任委員数を考慮して
- 政策会議 28**
委員会主義を踏襲、
1 常任委員会は7人
- 公明党 30**
4 委員会、平均給与から考慮すると30人を切っている状況。
- 共産 34、**
住民の代表であり、住民の意向を十分反映できることを考慮し、現状は維持する。
委員会は現状の4とする。
* 常任委員会は各会派4で一致。

現在、代表者会議で議会の定数問題が論議されています。次期改選時に向け、来年の3月議会までに各会派の意見をもとにまとめあげる予定になっています。しかし、各会派の意向では下記のように28議席から34議席と開きがあります。代表者会議は全会一致が原則ですので、合意は困難ですが、情報や意見交換を続ける予定です。

日本共産党は合併により、1市3町で従来あった60議席が34議席に大幅に減らされたうえ、現在でも予算決算議案や多くの議案など、市政政策に対して、十分な活性化に向けての論議や議会の監視機能が果たされていない。これ以上の定数削減には反対であり、現状の34議席を守るよう主張しました。

住民の意向を反映するためにも
十分な議員数は必要
いまこそ議会の活性化を！

市議会定数30案も浮上

11.11 反原発 官邸・国会100万人大占拠 原発はいらない！『大飯』をとめろ！の声あがる



怒りに包まれた雨の議事堂



11日の午後3時から7時ころにかけて霞が関国会周辺において「反原発で首都・官邸国会を大占拠しよう」とよびかけられたアピール行動が取り组まれました。天候は肌寒い雨が降る中でしたが、3時前から「原発は必要ない」「大飯原発はとめて」の思いで一致した多くの人が詰め掛けました。

久喜医師会と議会が 意見交換会を開く

11月14日、久喜市医師会からの申し入れにより、医師会と久喜市議会議員との意見交換会が開かれました。

最初に医師会の先生方からお話があり、小児医療センター移転問題について高木学先生は、小児医療センターが新都心へ移転すれば、3次医療が必要な場合、これまで20分ぐらいで行けたものが50分はかかる。30分以内が必要だとのべました。

「災害時の医療体制」について関谷栄先生は、災害時を想定したトレーニングを来年3月9日に実施したいと話しました。

「とねっと」の普及に向けた取り組みを話された久喜総合病院の井坂茂夫理事は、現時点で63,000人、医療施設の310の内102の医療機関が加入している。緊急時などに効果があることや、5年後には補助金がなくなり、毎年5,000万円かかる維持費をどうするかが大きな課題と話しました。

「地域の医療連携」について遠藤康弘先生からは、救急車の搬入状況や救急救命センターについて話しました。その後、意見交換が行なわれ、先生方から話されたテーマのみならず、出席した議員と先生方のあいだで盛んな意見交換が行われました。大変有意義な意見交換会でした。

11月議会日程決まる！12月21日まで

木村ともり議員

3日(月)
②番目

- 雇用の促進と地域活性化に向けて最近の経済動向と市内のリストラ、派遣切りの状況は
◆ハローワークや「ふるさとハローワーク」との連携は
◆中小企業地域経済振興基本条例の制定を
- 社会保障と税の一体改革と高齢者医療制度の見直し
◆患者負担特例措置のこれまでの論議過程は
◆70歳〜74歳までの医療費2割負担増への影響は
◆消費税増税と医療費増とセットは大きな問題
◆福島第一原発事故の最近の現状と対策について
- 通学路の放射能汚染の実態は
◆食材の測定へのさらなる要望実現を
◆内部被曝などの放射能への学校教育は
- 一般質問などで要望していた事項の進捗状況は
◆大型店ロジャース内の小公園の再利用は
◆久喜市東4丁目の県道建設後の歩道空きスペースの利用は
◆久喜市本町7丁目の震災被害後の道路舗装について

石田としはる議員

3日(月)
⑤番目

- 南栗橋液状化被害、復興に向けた取り組みについて
◆久喜市被災者住宅再建支援の対象住宅には、基礎支援金として一定の金額を支援すべき
◆液状化対策で、被害をうけた世帯へ地盤対策の修復費用の支援検討をすべき
- 水道料金の引下げを検討すべき
◆内部留保の財源を使い、水道料金の引き下げをすべき
- 水道水の「給水停止」は止めるべき
◆公共の福祉を担う市の事業でありやるべきではない
- 久喜市学校給食の運営方式について
◆久喜市全体の運営方式を1方式に限定せずに進めるべきでは
- 栗橋地区、イトーピア地域の歩道段差が高い状況にある。段差を解消しバリアフリーを進めるべき



こんなに高い「段差」正面の白い紙はA4サイズ

渡辺まさよ議員

4日(火)
④番目

- 利根保険医療圏で進める「とねっと」について現在、かかりつけ医と地域中核病院が連携して、患者さんの医療情報を共有し、見守るシステム「とねっと」が始まっている。しかし、今後の運営費用、参加医療機関の数、かかりつけ医の利点、救急の活用など、まだまだ問題点があると考えられる。これらをどう捉え改善していくのか問う。
- 健康増進への取り組みについて
◆尼崎市では、国保課に保健師を配置して特定健診、保健指導に力を入れ、予防医療、医療費削減に成功している。久喜市も保健師を入れた健康作り担当部署を作り、予防に力を入れてほしいが。
- 久喜市地域公共交通会議で審議が進んでいるが、市民、利用を望む側からの立場で、より良い公共交通をとという観点から抜けてしまっている。利用者の利便性を重要視しなければ、この事業は成功しないのではないかと。
- 最近、暴力団関係者とみられる者からの迷惑行為への苦情が寄せられている。毅然とした態度、防犯対策の強化地域住民が団結し、行政と協力体制をとるためにも「久喜市暴力団排除条例」(仮称)を制定すべきでは。

杉野おさむ議員

4日(火)
⑤番目

- 市関連の請負労働における「労災」適用を
◆これは、シルバー人材センターの会員などが仕事中にけがをしても労災が適用できるように条件整備することです。
- 一般市民が学校給食の試食をできるように求める
◆合併前の鷲宮町では、市民や団体が申し出れば試食ができていました。しかし、久喜市では認められません。従来通りできるように質問します。
- 障がい者への支援強化を
◆現在の法では、障がい者がヘルパーと病院に行くと、門の外までしかヘルパーの「報酬対象」となりません。市の判断で適用になるよう支援を求めます。
- 市の職員の労働条件、環境を改善することを求める
◆市の職員は、「サービス残業」が多いといわれています。また、女性職員は「生理休暇」がとれる状況ではありません。また、「有給休暇」もその年度内に消化されていません。これでは正常な労働環境とはいえません。改善を求めて質問します。